気象庁
Japan Meteorological Agency

報　道　発　表

いのちとくらしをまもる
防　災　減　災

令和８年２月10日
気　　象　　庁

速報版解析雨量における
気象レーダーの二重偏波情報の高度利用の再開について

「速報版解析雨量の過大算出について」（令和７年７月31日報道発表）に関連し、速報版解析雨量において気象レーダーの二重偏波情報の高度利用を停止しておりましたが、このたびプログラムの改修が完了したため、その運用を２月16日13時から開始します。

雨量を過大に算出した期間（令和７年６月４日から７月31日）の防災気象情報を確認したところ、特段の問題は確認されませんでした。

速報版解析雨量については、気象レーダーの二重偏波情報を強雨域の雨量推定に利用開始した令和７年６月４日以降、雨量がやや過大に算出される可能性があったことから、令和７年７月31日に、一旦、６月４日の変更前のプログラムに戻しました（令和７年７月31日報道発表）。

このことについて、プログラムの改修を行い、正常性が確認できたため、２月16日13時から速報版解析雨量における気象レーダーの二重偏波情報の高度利用を再開します。

なお、雨量を過大に算出した期間（令和７年６月４日から７月31日）における防災気象情報への影響については、特段の問題は確認されませんでした（詳細は別紙参照）。

今後の運用変更にあたっては、検証や確認を徹底し、速報版解析雨量の確実な運用管理に努めてまいります。

問合せ先：（本件全般について）
大気海洋部 業務課　平井
電話：03-6758-3900（内線4103）
（プログラムの改修について）
大気海洋部 業務課 気象技術開発室　白石
電話：03-6758-3900（内線4186）

【別紙】

速報版解析雨量の過大算出による他のプロダクトへの影響について

速報版解析雨量を利用する他のプロダクトにおいて、不具合を改修したプログラムを用いて再計算し、過大算出の影響を受けていたかの確認を行いました。

１　顕著な大雨に関する気象情報

該当期間内の令和７年６月９日に鹿児島県で発表した「顕著な大雨に関する気象情報」については、不具合の影響を受けておらず、当時発表したとおり基準に達していたことを確認しました。また、今回の不具合は降水量を過大に算出するものであったことから、「顕著な大雨に関する気象情報」の発表漏れはありませんでした。このため、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけについて、適中率や捕捉率にも影響はありませんでした。詳細は別添資料をご確認ください。

２　記録的短時間大雨情報

該当期間内に発表した「記録的短時間大雨情報」は 76 回でした。そのうち、再計算後の解析雨量において１時間降水量が発表基準に達した事例は 43 回でした。基準に達しなかった事例は 33 回ありましたが、そのうち３事例を除く全ての事例において１時間降水量が 80㎜ 以上の猛烈な雨が解析されたことを確認しました。また、情報の発表に至った１時間降水量は平均で２％程度過大であったこと、今回の不具合は降水量を過大に算出するものであったことから、情報の発表漏れが無かったことを確認しました。

３　キキクル等のその他のプロダクト

キキクル等の速報版解析雨量を利用している各プロダクトについて、今回の不具合は降水量を過大に算出するものであったことから、危険度の過小評価や警報等の発表漏れが無かったことを確認しました。また、キキクルにおいては、赤（警報相当）以上の出現頻度が、2%程度過大※だったことを確認しました。

※12 時間以内は同一事例と仮定して検証し、警報・注意報の発表区分である全国の二次細分区域ごとに集計

別添

令和７年11月14日時点

令和７年の実績　～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～

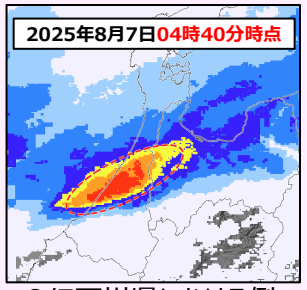
気象庁 Japan Meteorological Agency

- 気象庁では、線状降水帯による大雨の可能性がある程度高いことが予想された場合、半日程度前から「線状降水帯」というキーワードを使ってその旨を呼びかけている。
- 線状降水帯の正確な予測は困難だが、予測技術の開発を進め、令和６年５月から府県単位での呼びかけを実施している。
- 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施したとき、実際に大雨となる可能性が高いことから、**この呼びかけが行われたときには、ハザードマップや避難所・避難経路を確認するとともに、今後発表される防災気象情報や自治体からの避難情報に留意するなど、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要**である。
- 令和７年11月14日時点における線状降水帯の事例数は、11事例※1（地方予報区単位）

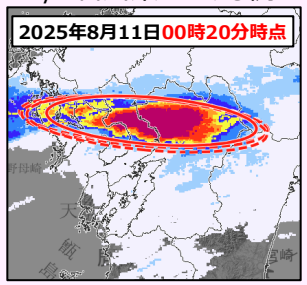
※1 線状降水帯の事例の数え方は、線状降水帯の雨域は複数の県にまたがる場合もあるため、令和５年度以前と同様に地方予報区（全国を11ブロックに分けた地域）単位としている。

府県単位でのとりまとめ結果	運用開始前の想定（令和５年のデータから検証）	令和７年（11月14日時点）
線状降水帯発生の呼びかけ「あり」のうち線状降水帯の発生「あり」※2	25%程度（4回に1回程度）	適中率（高いほうが良い）**約14%（88回中12回）**
線状降水帯の発生「あり」※2のうち線状降水帯発生の呼びかけ「あり」	50%程度（2回に1回程度）	捕捉率（高いほうが良い）**約71%（17回中12回）**
【参考】線状降水帯の呼びかけ「あり」※2のうち３時間降水量が100mm以上の大雨		**約61%（88回中54回）**

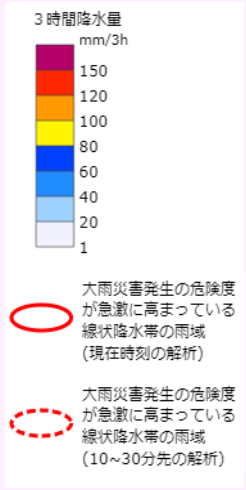
※2 線状降水帯の事例数と、府県単位での線状降水帯の発生「あり」の数は異なる場合がある。



8/7石川県における例



8/11熊本県における例



線状降水帯の発生の有無に関わらず、**この呼びかけが行われたときには、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要。**

線状降水帯の発生をお知らせする「顕著な大雨に関する気象情報」は、現在、10分先、20分先、30分先のいずれかにおいて、以下の基準をすべて満たす場合に発表します。（令和5年5月25日以降）

① 前３時間積算降水量（5kmメッシュ）が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
③ ①の領域内の前３時間積算降水量最大値が150mm以上
④ ①の領域内の土砂キキクル（大雨警報(土砂災害)の危険度分布）において土砂災害警戒情報の基準を超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）において警報基準を大きく超過した基準を超過

令和７年の実績　～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～

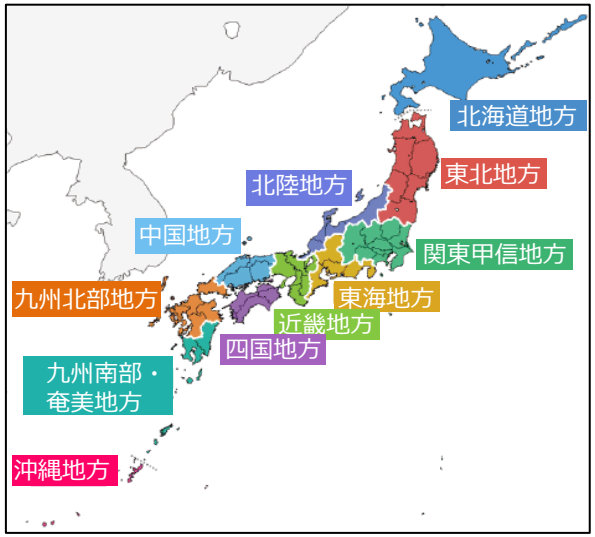
気象庁 Japan Meteorological Agency

実績表（その１）

線状降水帯の発生日※1	地方予報区	府県予報区※2	線状降水帯の発生状況	呼びかけ状況	3時間降水量最大値※3※4
6月9日	九州南部・奄美地方	鹿児島県(奄美地方を除く)	線状降水帯が発生	呼びかけを実施	約120ミリ
6月10日	九州北部地方(山口県を含む)	福岡県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約100ミリ
		佐賀県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約110ミリ
		長崎県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約110ミリ
		大分県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約100ミリ
		熊本県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約100ミリ
7月10日	関東甲信地方	茨城県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約80ミリ
		栃木県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約130ミリ
		群馬県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約160ミリ
		埼玉県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約160ミリ
		千葉県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約50ミリ
		東京地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約130ミリ
7月14～15日	東海地方	岐阜県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約90ミリ
		静岡県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約110ミリ
		愛知県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約100ミリ
		三重県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約100ミリ

※1 線状降水帯の発生がなかった場合は、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの対象日。
※2 鹿児島県では奄美地方を、東京都では伊豆諸島と小笠原諸島を区別して発表。
※3 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準の1つである前３時間積算降水量の最大値が100mm以上を着色。なお、10～30分先に基準を満たすとして同情報を発表した場合、実際には前３時間降水量の積算値が100mmに達しないことがある。
※4 6/4～7/31の期間については、速報版解析雨量における不具合を修正したプログラムを用いて、発表後に入電した観測データも活用し再計算した値

線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけが適中した事例。



地方予報区(全国を11ブロックに分けた地域)

令和●年●月●日●●時●● 分
●●気象台発表

●●県では、●日昼過ぎから夜遅くにかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。また、●●県では、●日昼前から夜遅くにかけて、局地的に雷を伴った非常に激しい雨が降る見込みです。●日昼前から●日明け方にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒してください。

半日程度前からの呼びかけの例

令和７年の実績　～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～

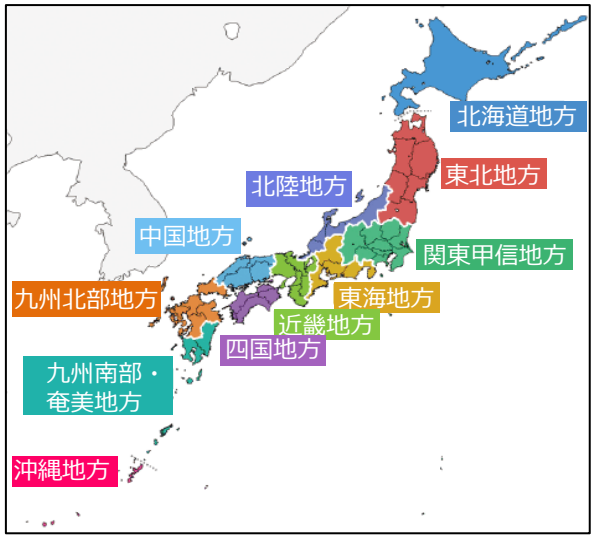
気象庁 Japan Meteorological Agency

実績表（その２）

線状降水帯の発生日※1	地方予報区	府県予報区※2	線状降水帯の発生状況	呼びかけ状況	3時間降水量最大値※3※4
7月17～18日	四国地方	徳島県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約90ミリ
		高知県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約120ミリ
7月18日	九州北部地方(山口県を含む)	佐賀県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約50ミリ
		長崎県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約140ミリ
7月25～27日	九州南部・奄美地方	鹿児島県(奄美地方除く)	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約70ミリ
7月27～28日	沖縄地方	大東島地方	－※5	呼びかけを実施	約90ミリ
8月6～7日	北陸地方	新潟県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約80ミリ
		富山県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約120ミリ
8月7日		石川県	線状降水帯が発生	呼びかけを実施	約150ミリ
8月8日	九州南部・奄美地方	鹿児島県(奄美地方を除く)	線状降水帯が発生	呼びかけできず(呼びかけ対象期間の2時間前に発生)	約130ミリ
8月8日		宮崎県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約170ミリ
8月8日		鹿児島県(奄美地方を除く)	線状降水帯が発生	呼びかけを実施	約200ミリ

※1 線状降水帯の発生がなかった場合は、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの対象日。
※2 鹿児島県では奄美地方を、東京都では伊豆諸島と小笠原諸島を区別して発表。
※3 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準の1つである前３時間積算降水量の最大値が100mm以上を着色。なお、10～30分先に基準を満たすとして同情報を発表した場合、実際には前３時間降水量の積算値が100mmに達しないことがある。
※4 6/4～7/31の期間については、速報版解析雨量における不具合を修正したプログラムを用いて、発表後に入電した観測データも活用し再計算した値
※5 解析雨量の計算範囲外の地域では、「顕著な大雨に関する気象情報」は発表しない。

□ 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけが適中した事例。



地方予報区(全国を11ブロックに分けた地域)

令和●年●月●日●●時●● 分
●●気象台発表

●●県では、●日昼過ぎから夜遅くにかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。また、●●県では、●日昼前から夜遅くにかけて、局地的に雷を伴った非常に激しい雨が降る見込みです。●日昼前から●日明け方にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒してください。

半日程度前からの呼びかけの例

令和７年の実績　～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～

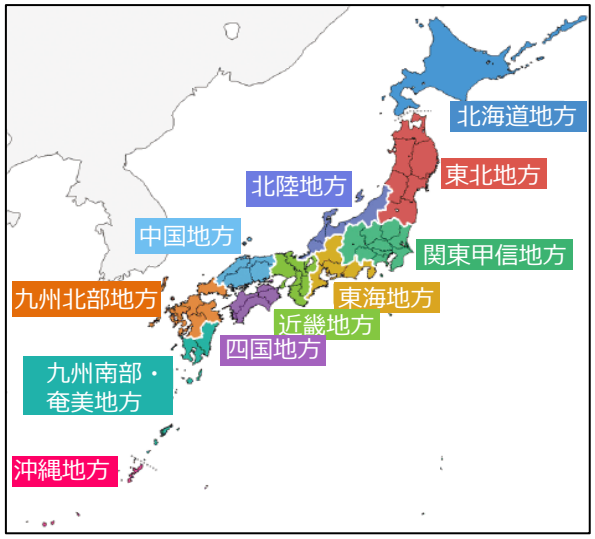
気象庁 Japan Meteorological Agency

実績表（その３）

線状降水帯の発生日※1	地方予報区	府県予報区※2	線状降水帯の発生状況	呼びかけ状況	3時間降水量最大値※3
8月9～11日	九州北部地方(山口県を含む)	佐賀県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約150ミリ
8月9～10日		福岡県	線状降水帯が発生	呼びかけを実施	約200ミリ
8月10日		山口県	線状降水帯が発生	呼びかけを実施	約200ミリ
		大分県	線状降水帯が発生	呼びかけを実施	約190ミリ
8月10～11日		熊本県	線状降水帯が発生	呼びかけを実施	約250ミリ
8月11日		長崎県	線状降水帯が発生	呼びかけを実施	約250ミリ
8月10～11日	九州南部・奄美地方	宮崎県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約110ミリ
		鹿児島県(奄美地方を除く)	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約50ミリ
8月11～12日	九州北部地方(山口県を含む)	長崎県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約160ミリ
8月20～21日	東北地方	青森県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約110ミリ
		岩手県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約80ミリ
		秋田県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約90ミリ
8月21～22日	九州南部・奄美地方	鹿児島県(奄美地方を除く)	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約200ミリ
8月27日	北海道地方	上川・留萌地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約80ミリ
		石狩・空知・後志地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約80ミリ
8月29日	東北地方	青森県	線状降水帯が発生	呼びかけできず	約160ミリ

※1 線状降水帯の発生がなかった場合は、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの対象日。
※2 鹿児島県では奄美地方を、東京都では伊豆諸島と小笠原諸島を区別して発表。
※3 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準の1つである前３時間積算降水量の最大値が100mm以上を着色。なお、10～30分先に基準を満たすとして同情報を発表した場合、実際には前３時間降水量の積算値が100mmに達しないことがある。

線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけが適中した事例。



地方予報区(全国を11ブロックに分けた地域)

令和●年●月●日●●時●● 分
●●気象台発表

●●県では、●日昼過ぎから夜遅くにかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。また、●●県では、●日昼前から夜遅くにかけて、局地的に雷を伴った非常に激しい雨が降る見込みです。●日昼前から●日明け方にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒してください。

半日程度前からの呼びかけの例

令和７年の実績　～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～

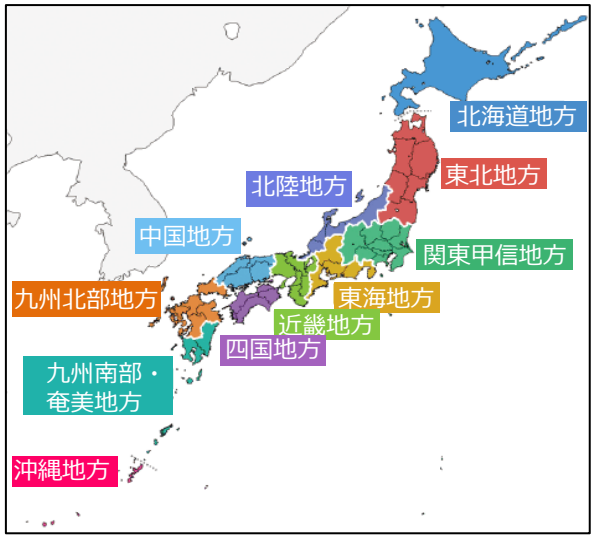
気象庁 Japan Meteorological Agency

実績表（その４）

線状降水帯の発生日※1	地方予報区	府県予報区※2	線状降水帯の発生状況	呼びかけ状況	3時間降水量最大値※3
9月3日	東北地方	秋田県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約90ミリ
		山形県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約110ミリ
	北陸地方	新潟県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約200ミリ
		富山県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約100ミリ
		石川県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約100ミリ
	関東甲信地方	茨城県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約70ミリ
		栃木県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約90ミリ
		群馬県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約70ミリ
		埼玉県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約40ミリ
		千葉県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約5ミリ
		東京地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約40ミリ
9月4日～5日	東海地方	岐阜県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約100ミリ
		静岡県	線状降水帯が発生	呼びかけを実施	約190ミリ
		愛知県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約140ミリ
		三重県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約120ミリ

※1 線状降水帯の発生がなかった場合は、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの対象日。
※2 鹿児島県では奄美地方を、東京都では伊豆諸島と小笠原諸島を区別して発表。
※3 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準の1つである前３時間積算降水量の最大値が100mm以上を着色。なお、10～30分先に基準を満たすとして同情報を発表した場合、実際には前３時間降水量の積算値が100mmに達しないことがある。

□ 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけが適中した事例。



地方予報区(全国を11ブロックに分けた地域)

令和●年●月●日●●時●● 分
●●気象台発表

●●県では、●日昼過ぎから夜遅くにかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。また、●●県では、●日昼前から夜遅くにかけて、局地的に雷を伴った非常に激しい雨が降る見込みです。●日昼前から●日明け方にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒してください。

半日程度前からの呼びかけの例

令和７年の実績　～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～

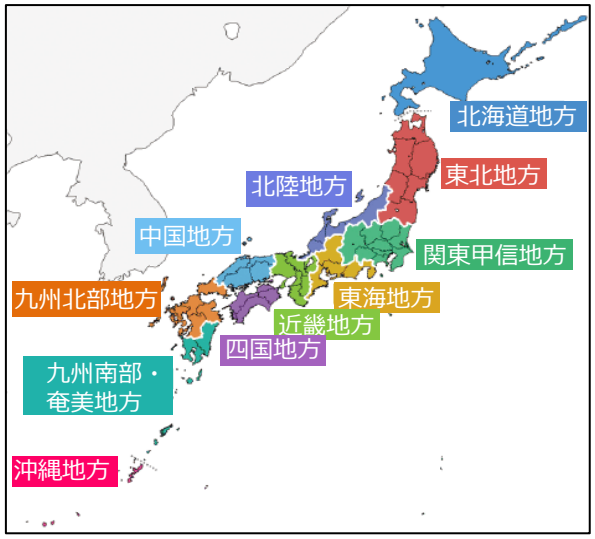
気象庁 Japan Meteorological Agency

実績表（その５）

線状降水帯の発生日※1	地方予報区	府県予報区※2	線状降水帯の発生状況	呼びかけ状況	3時間降水量最大値※3
9月4日	九州南部・奄美地方	宮崎県	線状降水帯が発生	呼びかけを実施	約180ミリ
9月4日	九州北部地方(山口県を含む)	大分県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約190ミリ
9月4～5日	四国地方	徳島県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約90ミリ
		愛媛県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約110ミリ
		高知県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約130ミリ
9月5日	東北地方	岩手県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約130ミリ
		宮城県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約180ミリ
	近畿地方	和歌山県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約120ミリ
9月5日	関東甲信地方	神奈川県	線状降水帯が発生	呼びかけを実施	約160ミリ
9月5日		茨城県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約110ミリ
		埼玉県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約70ミリ
		千葉県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約130ミリ
		東京地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約90ミリ
		伊豆諸島	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約50ミリ
		山梨県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約80ミリ
		長野県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約80ミリ

※1 線状降水帯の発生がなかった場合は、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの対象日。
※2 鹿児島県では奄美地方を、東京都では伊豆諸島と小笠原諸島を区別して発表。
※3 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準の1つである前３時間積算降水量の最大値が100mm以上を着色。なお、10～30分先に基準を満たすとして同情報を発表した場合、実際には前３時間降水量の積算値が100mmに達しないことがある。

□ 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけが適中した事例。



地方予報区(全国を11ブロックに分けた地域)

令和●年●月●日●●時●● 分
●●気象台発表

●●県では、●日昼過ぎから夜遅くにかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。また、●●県では、●日昼前から夜遅くにかけて、局地的に雷を伴った非常に激しい雨が降る見込みです。●日昼前から●日明け方にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒してください。

半日程度前からの呼びかけの例

令和７年の実績　～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～

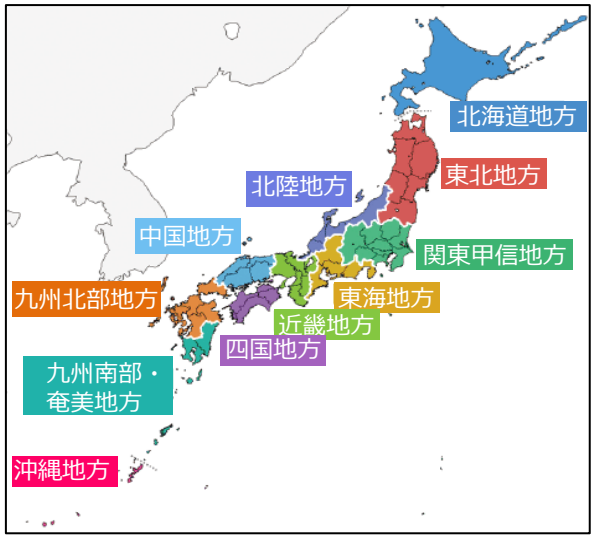
気象庁 Japan Meteorological Agency

実績表（その６）

線状降水帯の発生日※1	地方予報区	府県予報区※2	線状降水帯の発生状況	呼びかけ状況	3時間降水量最大値※3
9月7～8日	北陸地方	新潟県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約110ミリ
		石川県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約70ミリ
9月10日	中国地方	鳥取県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約70ミリ
		島根県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約80ミリ
9月10日	九州北部地方(山口県を含む)	長崎県	線状降水帯が発生	呼びかけできず	約200ミリ
		熊本県	線状降水帯が発生	呼びかけできず	約200ミリ
9月13～14日	北海道地方	胆振・日高地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約170ミリ
		石狩・空知・後志地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約110ミリ
		渡島・檜山地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約70ミリ
9月14日	九州北部地方(山口県を含む)	山口県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約70ミリ
		福岡県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約50ミリ
		長崎県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約90ミリ
9月20～21日	北海道地方	胆振・日高地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約200ミリ
		石狩・空知・後志地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約80ミリ
9月21日	北海道地方	釧路・根室・十勝地方	線状降水帯が発生	呼びかけできず	約150ミリ
10月3～4日	九州北部地方(山口県を含む)	長崎県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約140ミリ
10月9日	関東甲信地方	伊豆諸島	線状降水帯が発生	呼びかけを実施	約200ミリ

※1 線状降水帯の発生がなかった場合は、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの対象日。
※2 鹿児島県では奄美地方を、東京都では伊豆諸島と小笠原諸島を区別して発表。
※3 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準の1つである前３時間積算降水量の最大値が100mm以上を着色。なお、10～30分先に基準を満たすとして同情報を発表した場合、実際には前３時間降水量の積算値が100mmに達しないことがある。

□ 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけが適中した事例。



地方予報区(全国を11ブロックに分けた地域)

令和●年●月●日●●時●● 分
●●気象台発表

●●県では、●日昼過ぎから夜遅くにかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。また、●●県では、●日昼前から夜遅くにかけて、局地的に雷を伴った非常に激しい雨が降る見込みです。●日昼前から●日明け方にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒してください。

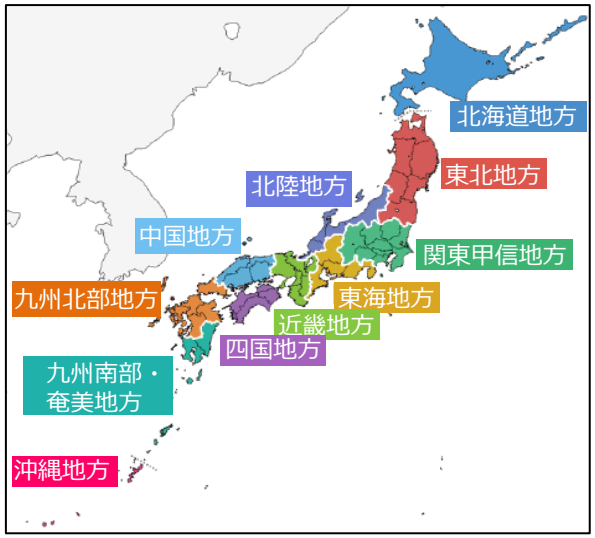
半日程度前からの呼びかけの例

令和７年の実績　～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～

気象庁 Japan Meteorological Agency

実績表（その７）

線状降水帯の発生日※1	地方予報区	府県予報区※2	線状降水帯の発生状況	呼びかけ状況	3時間降水量最大値※3
10月21～22日	関東甲信地方	伊豆諸島	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約40ミリ
11月13～14日	沖縄地方	沖縄本島地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約100ミリ



地方予報区(全国を11ブロックに分けた地域)

令和●年●月●日●●時●● 分
●●気象台発表

●●県では、●日昼過ぎから夜遅くにかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。また、●●県では、●日昼前から夜遅くにかけて、局地的に雷を伴った非常に激しい雨が降る見込みです。●日昼前から●日明け方にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒してください。

半日程度前からの呼びかけの例

※1 線状降水帯の発生がなかった場合は、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの対象日。
※2 鹿児島県では奄美地方を、東京都では伊豆諸島と小笠原諸島を区別して発表。
※3 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準の1つである前３時間積算降水量の最大値が100mm以上を着色。なお、10～30分先に基準を満たすとして同情報を発表した場合、実際には前３時間降水量の積算値が100mmに達しないことがある。

線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけが適中した事例。